

樹層の記憶 - 五感を編む -



00. 設計趣旨説明

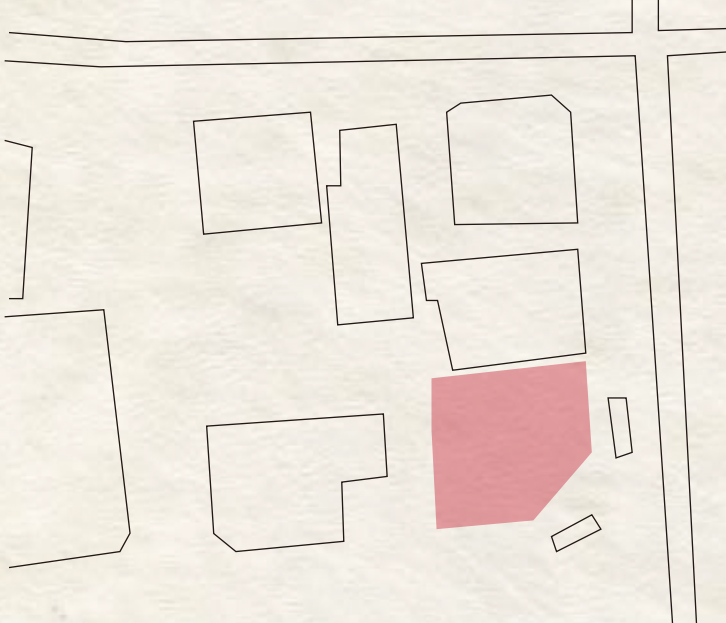
今までコンクリートや鉄でつくられてくることが多かったオフィスや商業施設を純木造建築として提案するにあたって、木造ならではの「人の感覚に訴える木に囲まれた空間」を、コンセプトとした。「目で距離を認識し木に囲まれる」「鼻で木の香りを楽しむ」「耳で木の音を楽しむ」「靴を脱いで肌で木を感じる」といった、人と木との距離を見つめ直し、木に囲まれ裸足で歩き回れるオフィスを提案する。

01. 背景

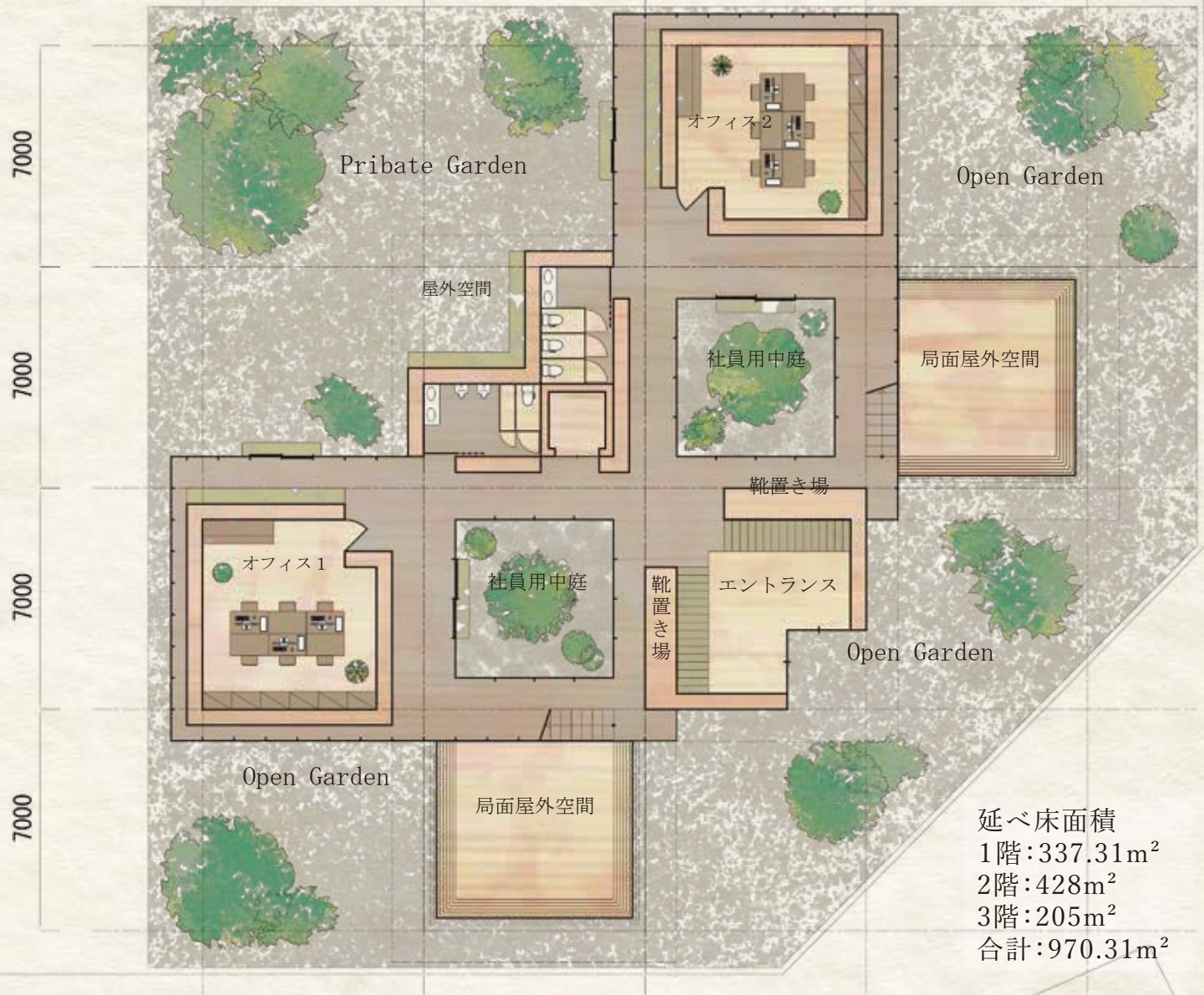
近年、環境的な持続可能性、技術的な進化、そして日本の伝統木造建築の文化的な価値の観点から、木材建築の良さは再確認されている。それと同時に、愛知県でも人工林の8割以上が建築用材としての利用時期を迎えている。木は、視覚、触覚、嗅覚、聴覚、そして場合によっては味覚まで、私たちの5感に豊かに働きかける唯一の自然素材である。そのような木材が持つ、コンクリートや鉄では表現できない魅力を最大限に感じられる空間の設計は、訪れる人々に深い満足感と癒しを提供し、長く愛される商業施設となるだろう。

02. 敷地配置図 (S=1:1500)

敷地は、名古屋駅から地下鉄東山線で4分、伏見駅の出口が集まる交差点の一角とした。伏見は、ビジネスや商業の中心地であり、多くの企業やオフィスビルが立ち並ぶ。また、地下街や飲食店も充実しており、昼夜問わず賑わっている。仕事と遊びが融合した活気あるエリアといえる。



1 階平面図 (S=1:200)





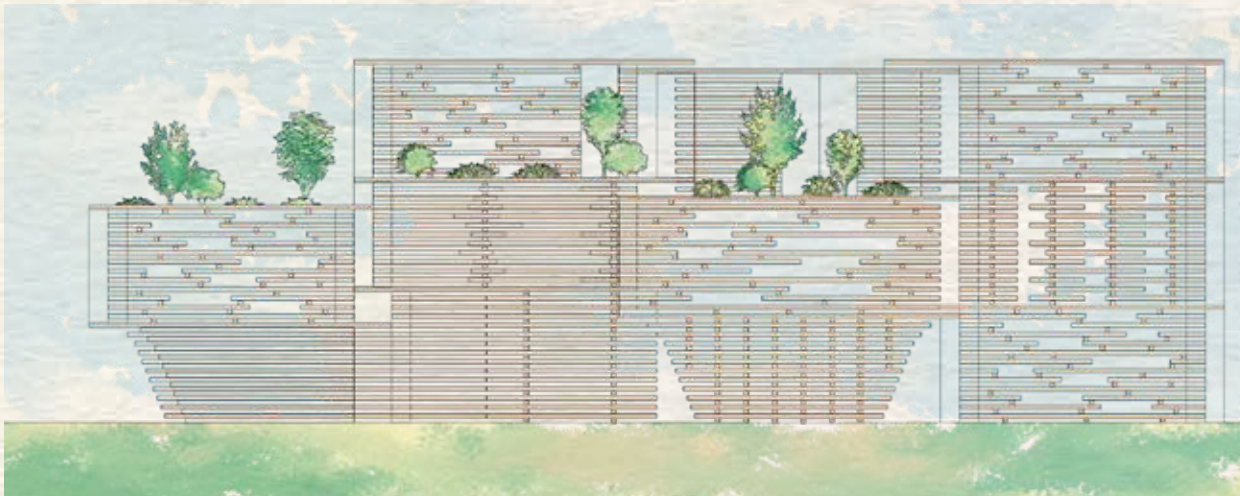
3 階平面図 (S=1:200)



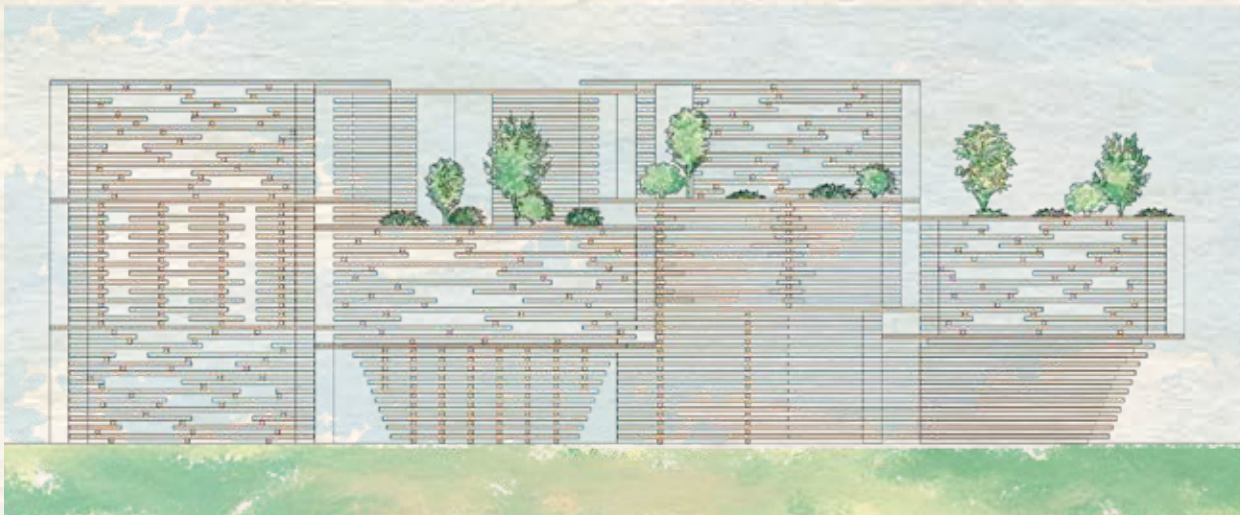
断面図 (S=1:200)



東側立面図 (S=1:200)



西側立面図 (S=1:200)



2 階平面図 (S=1:200)

